

[様式 9-2]

学 位 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

学位申請者 : Maulana Ibrahim

論文題目 : A Study on Historic Urban Landscape Characteristics
as Urban Heritage in Ternate, Indonesia

本論文は、インドネシア、テルナテ市の都市的遺産に関する実態的研究の結果をとりまとめたものであり、得られた成果は[様式 9-2 学位論文審査結果の要旨]で示した通りである。

学位申請者は、2011年4月に大阪産業大学大学院人間環境学研究科人間環境学専攻博士後期課程に入学し、研究を進めた結果、一定の研究成果を得たとして2016年4月4日に学位論文草稿とともに予備審査願の提出に至った。これを受けて、予備審査委員会の設置が2016年4月12日の研究科委員会で報告され、予備審査が行われた結果、同年4月30日に「学位論文審査委員会の審査に値すると認める」との予備審査結果報告書が提出された。

これに伴い、同年5月9日には学位論文審査願が必要書類一式とともに提出され、同年5月17日の研究科委員会において、金澤成保、吉川耕司、木村英二を審査委員とする審査委員会が設置された。

その後、2017年2月13日に開催された学位論文公聴会において、研究成果の発表を行っている。

審査においては、まず、「人間環境学研究科博士 [人間環境学] の学位授与基準に関する申し合わせ」にもとづき、様式 2「論文目録」に記載された参考論文が学術論文の篇数に関する基準を満たしているかを確認した。なお、篇数換算については「人間環境学研究科担当教員の審査基準の適用に関する申し合わせ」を準用することに合意した。その結果、本学論集に単著者または第一筆者として2篇以上の審査付学術論文が掲載されており、これらは各々0.8篇として換算することとなるが、目録に記載された他の論文の換算篇数を加算すれば、基準を満たすことが確認された。

次に論文本編について審査を行った。本研究は、[様式 9-2 学位論文審査結果の要旨]に記述した通り、インドネシア、テルナテ島旧市街地の都市的遺産を、今日まで継承されてきた歴史的な都市空間、建築遺産、および文化活動に着目し、関連する文献・史料の調査を実施した上で、はじめてその実態を体系的に調査し明らかにしたもので、学術面で有用な知見と情報を提示したのみならず、今後のテルナテ市の文化財、都市空間、建造物、およ

び文化活動の保全に関する都市政策の実務面でも寄与するところが大きいと認められる。ただし、予備審査および公聴会において、論文に使われている英語の不明瞭な表現の訂正の必要性が指摘され、修正されることになった。また都市的遺産の保全に関する今後の調査には、より詳細な調査の実施と他島に立地する港湾・交易都市との比較考察によるテルナテ旧市街地の固有性と共通性を明らかにすること等の必要があることの指摘を受けており、申請者は、これらを踏まえ所属する大学の教員として鋭意教育・研究を行い、テルナテ市等関連行政機関へ実務面での提言を行っていくことが確認された。

もとより審査においては、審査願とともに提出された論文をもとに判断を行っており、その結果、上述のような改善の余地は存在するものの、学位論文の水準を満たしているとみなすことができた。

以上のことから、学位論文審査委員会は、本申請について学位を授与できると判断する。

審査委員〔主査〕

金澤 成保

